

教育と文化

No.133

令和5年11月



令和5年度「みかわ彩発見絵画コンクール」春・夏の部 最優秀作品

Contents

- 2 巻頭言「デジタル化の着実な歩み」
- 4 三河の文化を訪ねて「烈士 鳥居強右衛門」
鳳来中部小（新城）
- 6 **特集** フルカラー化する刊行物
「社会の友 チャレンジ地理」
- 8 デジタル採点支援システム実証研究校から
東刈谷小・刈谷南中（刈谷）
- 9 教室の窓辺「学年の枠を超えて」
河合中（岡崎）
- 10 特色ある教育活動
「『学び続ける南中生』を育て、発信する」
南中（高浜）
- 11 令和5年度個人研究助成
「1年次・2年次・3年次被助成者」・「選考を終えて」
- 15 研究論文提出者の紹介
「令和2～4年度の研究者10名」
- 16 文振だより「小学校版大改訂」

<愛知教育文化振興会のデジタル化の歩み>

令和2年度

- 「親と子の自然観察ガイド」「英語の学習」にQRコード掲載
⇒ 蝉の声、リスニングの復習などに活用
- 三河教育会館内にWi-Fiの設置
⇒ 編集委員会でのデータのやりとりや検索に活用
- Web会議用システムの導入
⇒ コロナ禍の会議に活用
- 構内サーバーからクラウドストレージ (Dropbox) へ変更
⇒ セキュリティの高いクラウドストレージに移行し、テレワークにも活用
- 文振全職員にタブレット (iPad) を貸与
⇒ 学校訪問時の各種説明に活用 館内会議のペーパーレス実現
- 各印刷出版会社が刊行物のデジタル化を提案
⇒ 刊行物を担当している印刷出版会社がデジタル化の可能性をプレゼン

令和3年度

- 館内組織改編「ICT部」創設
⇒ 部長1名、部員1名
- ビジネスチャット (NTTビジネスソリューションズのelgana) 導入
⇒ 各編集委員会でグループを作成し、原稿の照会や連絡等に活用 (FAX使用激減)
- 館内の案内板 (デジタルサイネージ) の更新
⇒ 玄関に設置してある案内板をより機能的に管理

令和4年度

- 刊行物の教材PDFダウンロードサイトの構築 (運用開始 4月)
⇒ 教師用をPDFで送付することで、授業内での刊行物の活用拡大
- 文振メールマガジン創刊 (毎月)
⇒ 各学校への連絡 (各部局からの報告・コンクールや会議の案内) に活用
- デジタル採点支援システムの実証研究 (10月～翌年12月)
⇒ 各都市で数校を研究校に依頼し (三河地区44校)、導入に向けた問題点の洗い出しと改善
- QRコード管理サイトの構築 (運用開始 9月)
⇒ QRコードの一元管理、セキュリティ強化

令和5年度

- 刊行物のうち、「学習類・演習類」の教師用はすべてPDF (ペーパーレス) で提供
⇒ 授業での活用、教材研究のしやすさ等
- デジタル採点支援システムWeb説明会の実施 (8月・12月・1月)
⇒ 説明を3段階に分け、次年度4月にスムーズに運用できるように支援

令和6年度

- デジタル採点支援システムの導入 (提供開始予定 4月)
⇒ 学習類・演習類を採用した学校に、採点の設定情報を付けて提供

巻頭言

デジタル化の着実な歩み

公益財団法人愛知教育文化振興会常務理事 水藤 彰 啓



6月から常務理事を拝命しました水藤彰啓と申します。よろしくお願ひいたします。

本法人では「ことばのきまり」をはじめとする多くの刊行物販売による収益を財源として、さまざまな事業を展開していることはご存じのことと申します。

「郡市教育・研究助成」「個人研究助成」「団体研究助成」「学校教育ボランティアグループ助成」などの事業では、三河地域の小中学校の先生方や保護者の方々、そして児童生徒の皆さんに対して、日頃の教育活動の充実に大きく貢献できているものと思います。公益財団法人として12年目となる本法人は、三河の教育振興のためにますます公益性を発揮して、三河の児童生徒、先生方の支援を続けていく覚悟です。

さて、令和に入り、国の「GIGAスクール構想」によって、平成時代の、「パソコンやタブレットが学校にあつたらいいな」から「なくてはならないもの」(当時の文科大臣談)として、児童生徒一人1台のタブレット端末が貸与されることになりました。同時に本法人でも、「刊行物のデジタル化」について、何をどのように進めていくのか検討し、実行に移すことが急務となりました。本法人がデジタル採点支援システムを三河地域の小中学校に導入していこうとする決め手になったのは、このシステムが先生方の採点業務にかかる時間を少なくできることはもちろん、設問ごとの正答率や児童生徒の設問別正誤情報が自動集計され、授業や個別指導に生かせる点、得点データ

などを校務支援ソフトに保存して評価の資料として蓄積できること、全員の解答が一度に見られるため採点ミスが減ることなどです。先生方の負担軽減に寄与し、さらに、児童生徒の学習効果も上がるもので、今の学校改革の一助になると考え、導入を決めました。

皆様もご存知の通り、最近の社会のAI化には、驚かされます。不登校の子どもたちへの支援として仮想空間をつくってはどうか、子どもたちの表情を読み取って支援に生かしてはどうかなど、教育にもAIを取り入れようという動きもあり、賛否両論、さまざまな議論が展開されています。

それらとはもちろん次元が異なりますが、デジタル採点支援システムの使用に際し、これまで「子どもたちが頑張った成果だから」と一生懸命に採点をされてきた先生方にとっては、「人の手」でないことに抵抗感があるかもしれません。

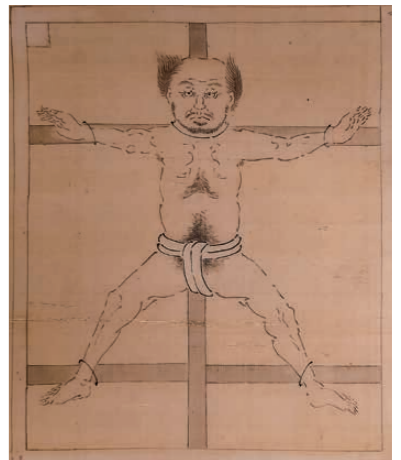
実際に、「テストの採点まで機械任せでいいのか」という意見をいただきましたが、実証研究校のアンケート報告からは、「採点業務で時間が短縮できた分、児童生徒とふれ合う時間が増えた」「子どもたち一人一人や学級の傾向がすぐにわかるから、授業に生かせる」など、子どもたちにとってもよいという意見が多く聞かれました。

今後、このデジタル採点支援システムを活用する中で感じた要望などをお寄せいただき、本システム改良の視点としても考えています。来年4月を皮切りに皆様の学校で活用されることを願っております。

今なお引き継がれる郷土の英雄

烈士 鳥居強右衛門

新城市立鳳来中部小学校長 白井 秀明



「鳥居勝商磔殺之図」新城市指定文化財 画像提供 新城市長篠城址史跡保存館

現在東京大学史料編纂所に残っているものである。この旗指物の存在がその後、強右衛門が世に知れ渡る大きな要因ともなった。

強右衛門の生い立ちと合戦後

強右衛門は、1540年、三河国市田村（現豊川市市田町）の農家に生まれた。生誕地では「八幡様のお祭り」で草相撲があり、これを見ていた一人の武士が強右衛門に眼をつけ、見込みがあるというので、作手の奥平氏の家来に取り立てた。」という伝承がある。

成人した強右衛門は、奥平貞能に仕えていたが、貞昌が長篠城の城主となった折、長篠城に移った。そして、武田との戦いに臨むことになった。

長篠の戦の後、強右衛門の遺骸は有海新昌寺に葬られた。6月16日に本葬が営まれ五輪塔が建てられた。その後1603年、墓は作手の甘泉寺に移転され、新昌寺の墓は荒廃していたが、長篠村の有志らにより、1763年に石碑を立て一大供養を行った。

鳥居家の子孫については左上の略系図のように本家の家系が明らかになっている。本家の子孫は奥平信昌（貞昌）に続き、その四男松平忠明に仕えるなどし、幕末まで藩の重職を歴任したという。また、強右衛門の二男から

行動についての新しい解釈とも重なり、大変注目された。

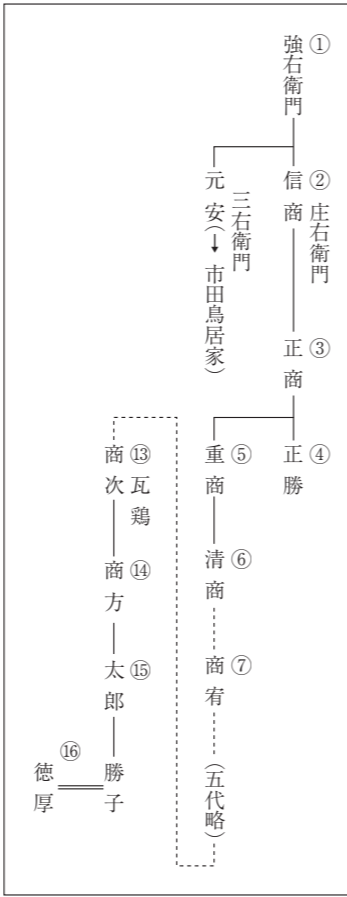
長篠城をめぐる戦いと強右衛門

1575年5月、奥平貞昌が守る長篠城は、勝頼率いる武田軍の攻撃を受けて落城寸前であった。軍議が開かれ岡崎城の家康へ援軍を要請することになった。この時、貞昌の家臣であった強右衛門は自ら進んでこの役目を引き受けた。14日の夜、強右衛門は密かに城内から忍び出て寒狭川に出た。敵の監視や川中の鳴子の網をかくぐり、豊川を約1里ほど泳ぎ下り、広瀬で上陸した。その後、雁峰山での上り、作手を通り、岡崎に向かった。15日、岡崎についた強右衛門は、岡崎に到着した信長と家康に奥平貞能（貞昌の父）を介して長篠城の情勢を伝えた。



長篠城址入口の看板

鳥居家略系図(金子拓著「鳥居強右衛門 語り継がれる武士の魂」より)



続く、市田の家系も伝わっており、現在もその末裔が在住している。

広がる烈士の姿と地元の顕彰

江戸時代を通じて、幾多の戦記に強右衛門の活躍ぶりが記されてきた。明治期には歌舞伎で演じられ、錦絵にもその雄姿が描かれた。さらに1910年には国定教科書「尋常小学読本」に掲載され、全国の子どもたちがその名を知ることとなる。その後も、小説や映画で表されてきたのは周知のことである。

前述の墓がある新昌寺では墓の再建後、鳥居祭りとして供養が続けられ、近年は地元小学生が強右衛門の歌や古戦場の歌を披露している。長篠城址では1925年に鳥居強右衛門勝商長篠戦役陣歿将士350年祭が盛大に行われた。その後、1966年より「長篠合戦のほりまつり」が開催され、強右

衛門に扮した武者が他の武将とともに地域を巡り入場したり、強右衛門が走った道を参加者が走り抜けたり、強右衛門の絶叫にちなんだ「大声コンテスト」が行われたりすることもあった。その流れは近年の地域の催しでも採用されている。強右衛門の生まれた豊川の市田においては大正時代に強右衛門の顕彰組織として「鳥居会」が発足し、1914年に強右衛門の顕彰碑が赤塚山に建てられた。その理由は、日露戦争で市田地区から出征した兵士に戦死者が出なかつたことを強右衛門の御加護のお陰と言われたからとのことである。そして、いくつかの石碑や顕彰碑が建立された。鳥居家の菩提寺松永寺には石碑に加え、強右衛門の木造も制作され、安置された。現在も伊知多神社で5月に強右衛門を偲ぶ鳥居祭が営まれてい。市田町内会が主催し、鳥居家の末



長篠城址での歴史ガイド

裔や町民が参加し、子どもたちが強右衛門にかかわる歌を歌ったり剣道の型を奉納したりしている。

強右衛門を通してつながる 学校教育

新城市内では学習発表会などで戦国時代の学習劇を演じる小学校が多くみられ、強右衛門が登場する場面もよく披露されてきた。

地元鳳来中部小学校ではこの10年ほど、長篠合戦について歴史ガイド活動を行っている。内容ごとにグループに分かれてガイドをしているが、強右衛門は人気のグループだ。のほりまつりの来場者や社会科見学で訪れる他校の子どもたちに、自分たちが調べたことを自信をもって説明している。今年度

は、決戦場のある新城市内の東郷地区の小学校とのガイド交流が行われ、さらに、強右衛門のつながりで、生誕地市田の豊川市八南小学校との授業交流も行われた。

おわりに

強右衛門が引き付けるものは何か。地元郷土史家で長篠城址史跡保存館初代館長の丸山彰の著書「烈士鳥居強右衛門とその子孫」（1973年発行）のまえがきには、次のように記されている。

「(略) 援軍は来るぞと、真実のことを叫んで5月16日遂に磔になった。強右衛門が表面に立って活動したのは、実にこの3日間であった。雑兵という低い身分の彼が36歳までに練り鍛えた精神力と体力とはこの3日間に燃焼し尽くし、そして日本の歴史に大きな足跡を残した。強右衛門が有海原頭の露と消えてから既に400年、その烈々たる魂、今も尚、訪れる人々に深い感動を与えている。」

主な参考文献と関係施設案内

- 「烈士鳥居強右衛門とその子孫」丸山彰著 「鳥居強右衛門 語り継がれる武士の魂」金子拓著

※長篠城址史跡保存館





「チャレンジ地理」

- ◇フルカラー化し、視認性の向上と魅力的な紙面構成
- ◇活用力・応用力の向上を図るための基本的なページと各地域の特徴を考察する応用的なページを掲載
- ◇カラーユニバーサルデザインへの対応

特集

フルカラー化する

刊行物

「社会の友」

- ◇フルカラー化
- ◇語句の解説や解き方のヒントを掲載
- ◇「社会の学習」と連携した内容構成



表紙のデザインも変更します

日本の地域的特色と地域区分 地形から見た日本の特色

〔作業1〕 下の地形の模式図を参考に、右の表の①～⑦の名称を記入しよう。



地形の分類	
①	山が列状に連なる場所
②	標高が高く、起伏が大きい場所
③	標高が高く、起伏が小さい場所
④	高原
⑤	盆地
⑥	平野
⑦	平野や盆地のうち、一段高い平坦な場所

【カラー資料の掲載】
写真や図表もカラーになり、よりわかりやすくなります。

〔作業2〕 [A] から [C] の山脈と山地に、指定された色をぬろう。

[A] 1000m～2000mのなだらかな山地 北見山地、北上高地、阿武隈高地、 中国山地、筑紫山地、紀伊山地、 四国山地、九州山地	黄
[B] 2000m～3000mの少し高い山地 日高山脈、奥羽山脈、越後山脈、 関東山地、出羽山地	茶
[C] 3000m級の険しい山脈 飛騨山脈、木曾山脈、赤石山脈	赤

【記入への配慮】
ほぼフラットに開きますので、記入しやすくなります。

〔作業3〕
地図帳等を参考にして、
①～⑩の□にあてはまる名前を記入しよう。



【ユニバーサルデザイン化】
色弱者に配慮したカラーユニバーサルデザインを取り入れます。



【身近な資料の掲載】
愛知県に関する資料を掲載しました。身近な資料は、単元や授業の導入、あるいは、発展学習に役立ちます。

海岸線から水深200mくらいまでのゆるやかな斜面の海底のことを【5】といいます。そこは【6】が豊富で、海藻がよく育ち、魚がたくさん集まります。

日本の近海は、③のように南から流れる【7】北から流れる【8】流【9】がぶつかり、魚の種類【10】なっています。

愛知の水産業
愛知県の水産業は、伊勢湾、三河湾などの豊かな海と、県内各地の河川や養殖池で営まれています。漁か量日本一のアサリを始め、全国上位をしめる水産物が数多く生産されています。



愛知県HP
「あいちの水産業」

【学習指導要領を踏まえた用語解説】
学習指導要領を参考に、必要な用語を補い、学びを広げました。

- ① [] 1985年から1995年にかけて外国からの輸入が増えた。
- ② [] 2019年を見ると、30年前とくらべて沖合漁業、沿岸漁業も生産量が増えている。
- ③ 【児童の思考を踏まえた問題作成】
児童がより問題に取り組みやすくなるよう、表を活用するなど、出題形式を見直しました。考えることばを書き、表を完成させましょう。

漁業の名前	特色
① []	遠くの外に出かけて、長い期間にわたって行われる漁業
② []	10トン以上の船を使って、数日がかかりで行われる漁業
③ []	10トン未満の小型船で、地引きあみで行われる
④ []	人の手で、魚や貝のたねを育てながら育てる漁業
⑤ []	たまごから成魚になる育てる漁業

【授業を意識したヒント】
資料のどの部分に着目すれば問題解決の手がかりが得られるか、授業場面を想定したヒントを掲載しました。

(4) 沖合漁業や沿岸漁業が減ってきた理由を書きましょう。

.....

.....

.....

ヒント!
(4) (1)のグラフから、沖合漁業や沿岸漁業が減ってきたのはいつごろか読み取り、そのころの輸入量の変化と関連づけて考えましょう。

愛知の水産業
愛知の水産業は、伊勢湾、三河湾などの豊かな海と、県内各地の河川や養殖池で営まれています。漁か量日本一のアサリを始め、全国上位をしめる水産物が数多く生産されています。

【用語解説】
6次産業化
水産業では、生産・加工・販売を一緒に行う「6次産業化」の動きも進んでいます。地域資源を活用し、水産業の未来を考えた取り組みをしています。



愛知県HP
「あいちの水産業」



令和4年度から、デジタル採点支援システムの実証研究校になった。

そこで、従来どおりの採点とデジタル採点システムを使用した採点の二通りを比較してみた。

《従来どおりの採点方法》

- 1 テストの隅をクリップで止める。
- 2 紙を一枚ずつめくりながら、設問ごとに丸を付ける。
- 3 観点別集計・合計点の集計をする。
- 4 成績用のエクセルシートへ点数を手入力する。

採点所要時間：約25分

《デジタル採点支援システムを採用了した採点方法》

採用した採点方法

- 1 答案用紙をスキヤナーで取り込む。
- 2 「すべて○」のチェックをする。
- 3 一覧で確認しながら、誤答や部分点の検討をする。
- 4 部分点を採点する。
（「△で並び替える」という機能を使用して、部分点が必要な答案を並べて表示して確認することで、基準を均一にできた。）
- 5 ○×の問題や記号問題は自動採点機能で採点する。
- 6 ○×と点数が印字された答案用紙を印刷する。

- 7 点数のエクセルデータをダウンロードして、成績用のシートへ転記する。

採点所要時間：約20分

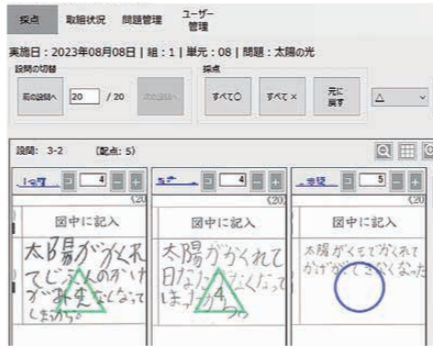
《デジタル採点支援システムを使った感想》

従来の採点方法で25分、デジタル採点システムで20分かかり、約20%の時間削減となった。

部分点を検討する場面ですべて表示させることができるので、テスト用紙をめくって比較する必要がなくなり、大幅な時間短縮になった。

観点別の点数を合計するときに、ミスが無いように気を遣っていたが、デジタル採点システムの場合、自動的に計算されるため、時間短縮に加えて精神面で負担が大きく軽減された。

デジタル採点システムは大変実用的だと感じた。



採点の画面

デジタル採点支援システムの魅力

デジタル採点支援システム実証研究校からの報告

本校の生徒数は、730名で、私は1人で全校の技術科の授業を受けもっている。テストの採点については、各クラス1時間程度の時間を要する。全20クラスあるので、採点に毎回約20時間かかっている。

導入されたデジタル採点支援システム (Answer Box Creator) を活用する中で、3点の魅力に気付いた。

《1文字解答の自動採点》

数字だけでなく、ひらがなやカタカナでも1文字であればソフトが読み込み、自動で採点してくれる。自動採点機能をできる限り活用できたことで、採点時間の削減することができた。

《設問ごとの採点》

同じ設問の解答を1度にパソコンの画面に表示させることができる。これによって、間違っている解答を視覚的に瞬時に判別することができ。また、記述問題の場合、回答を見比べることができ、採点基準がぶれることなく、正確な採点ができる。

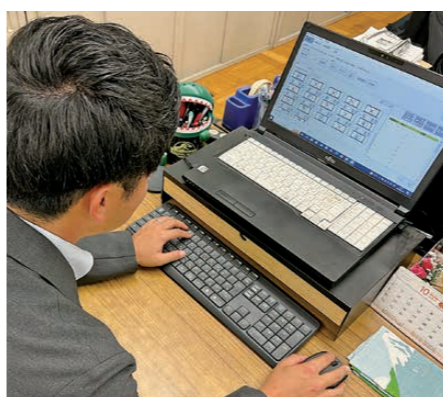
《得点の自動集計》

事前に各設問の配点を設定しておくことで、自動で合計点を計算でき

る。さらに、観点ごとの集計も設定しておけば自動で行える。成績処理を行う際に非常に便利である。

以上の3点の魅力のおかげで、1クラス1時間かかっていた採点を、1クラス30分程度で行うことができるようになった。20クラスで考えると、10時間もの採点時間を削減できたことになる。この時間に教材研究等を進めることができたため、デジタル採点支援システムを導入することによる効果は非常に大きいと感じる。

「働き方改革」という言葉が叫ばれている現在、ICT機器やアプリケーションを上手に利用することで業務の効率化を図ることができる。こうして生み出された時間を授業改善や生徒理解等に活用していきたい。



デジタル採点支援システムで採点中



教室の窓辺

学年の枠を超えて

岡崎市立河合中学校 教諭

向 孝太

本校は、豊かな自然あふれた岡崎市茅原沢町にある全校生徒55人の小規模校です。生徒たちは、自然豊かな環境の中で伸び伸びと学校生活を送っています。

その自然豊かな環境を生かして、毎年、4月に『グリーンアドベンチャー』という行事を開催しています。この行事は、生徒会が企画をして1、2、3年の縦割り班で学区を歩いて巡りながら、地域について学び、学年の枠を超えた仲間との親睦を深めることを目的としています。

今年も、4月24日に実施しました。天候もよく、絶好の行事日和になりました。まずは、出発式を行い、次に、縦割りのグループになり、時間をずらしながら、出発をしていきます。1年生の様子を見ると、緊張した表情で、なかなか先輩と会話をするきっかけをつかめないようでした。どの班も、まだそれぞれの班員について理解が深まっていないため、会話が弾んでいません。しばらくして3年生を中心に、「なんて名前を呼んだらいい。」「何部に入るの。」

など、先輩から後輩へと積極的にコミュニケーションをとる様子が多く見られました。生徒たちは、先輩を中心に班員で相談しながら地図を片手に決められているチェックポイントを目指します。チェックポイントに着くと、地域の史跡や逸話、自然にまつわるクイズが用意されています。そのクイズを班員で相談しながら答えていきます。

道中で、3年生が1年生の荷物を持って歩いている場面に遭遇しました。けがなどがあつたのではと不安になり、話を聞きました。すると、3年生が、「1年生は、1日歩いて疲れているから、自主的に持っています。僕は、体力をつけたいし、トレーニングになるので、一石二鳥です。」と答えました。私は、3年生の優しさにとても心が温かくなりました。

生徒たちは、共に歩き、会話をしながら弁当を食べ、助け合い、協力する中で、班員との仲を深めていきました。最初は、不安そうな顔をしていた1年生も、いつの間にか、班の先輩たちと楽しそうに話しています。

学校に帰ってくるころには、歩き疲れていると予想していましたが、実際は、とても明るい笑顔と楽しそうな会話で溢れていました。

この行事を通して、生徒たちは、河合学区の歴史や自然を学ぶとともに、学年の枠を超えて仲を深めることができました。小規模校だからこそできるこの行事がよりよいものになるよう、これからも生徒と共に考えていきたいです。



チェックポイントで相談する生徒たち

初夏にはホタルが優雅に飛翔する河合学区です。校訓「琢磨」のもと、小規模校の利点を生かし、生徒一人一人の自己肯定感を醸成できる教育活動に努めています。生徒会活動や部活動では、先輩が後輩を気遣い、後輩は先輩を慕う温かな関わりを通して良好な関係が構築されています。

向教諭は、小学校で6年間の経験を経て、今年度より本校に赴任してきました。初めての中学校勤務ですが、生徒ファーストのもと、常に前向きに、生徒と共に悩み、考え、行動しています。生徒と同じ目線で接するので、生徒から慕われる存在です。今後もさらに実践を積み重ね、本校を支える存在になることを期待しています。

(校長 寺澤 益実)

令和5年度 個人研究助成

本法人では、先生方の研究を支援しています。本年度は、1年次研究、2年次研究、3年次研究において、以下の先生方に助成しました。3年次研究を終えられて、研究成果論文を提出された先生方を対象に、最終審査会を行い、来年2月に優秀論文の表彰式を開催します。



<1年次> (208名)

研究領域	郡 市	学校名	氏 名
国語(小)	岡崎	梅園小	磯田ひかる
	岡崎	梅園小	高橋 侑也
	岡崎	男川小	竹市 仁美
	岡崎	亀美丘小	里見 真帆
	岡崎	大門小	河崎 沙綾
	岡崎	上地小	石黒 真菜
	刈谷	小垣江小	竹山 佑紀
	豊田	拳母小	中岡 慶
	豊田	根川小	古澤 流夏
	豊田	山之手小	山田 憧
	豊田	駒場小	嶋 優子
	豊田	飯野小	大浦 陽太
	安城	錦町小	北村 亮
	安城	桜井小	杉浦 志保
	安城	新田小	大参 瑞生
	安城	三河安城小	八澤 理紗
	西尾	花ノ木小	榊原 歩南
	西尾	花ノ木小	鈴木 希彩
	西尾	横須賀小	吉國 胡桃
	西尾	幡豆小	春日野 愛
	幸田	荻谷小	池田 幸生
	幸田	深溝小	山本 治加
	豊橋	羽根井小	松下 華子
	豊橋	栄小	桑田 七海
	豊川	千両小	鳥居 高秋
	豊川	一宮西部小	塚本 真由
	豊川	赤坂小	手塚 峻也
	新城	鳳来寺小	繁田 幹江
国語(中)	岡崎	竜海中	緒方 涼子
	岡崎	常磐中	永井 文流
	岡崎	矢作北中	永田 真夕
	刈谷	雁が音中	谷山 孝直
	豊田	若園中	森岡 莉子
	安城	篠目中	内藤 大貴
	西尾	西尾中	宮崎 葵衣
	西尾	一色中	鈴木 絢子
	西尾	吉良中	山田なつ湖
	豊橋	東陽中	富永 拓実
	蒲郡	中部中	龜岡 晃希
	豊田	花山小	茅田 貴博
社会(小)	岡崎	細川小	江本 望
	豊田	岩津小	宮本 晃輔

研究領域	郡 市	学校名	氏 名
社会(小)	安城	桜井小	渡部 均
	知立	知立東小	鈴木 倭音
	幸田	深溝小	宗仲 麻佑
	豊橋	牛川小	服部 誠也
	豊橋	鷹丘小	高橋 優徳
	豊橋	嵩山小	小林 亮弥
	豊川	赤坂小	小石 玄
	蒲郡	蒲郡北部小	若林 和也
	岡崎	岩津中	萩原 緑
	岡崎	矢作北中	吉田 修梧
社会(中)	岡崎	翔南中	中西 歩澄
	西尾	西尾中	牧野 恭祐
	豊橋	羽田中	鈴木 博貴
	蒲郡	中部中	藤井 大樹
	北設	設楽中	岡 弘明
	岡崎	男川小	西川 翔也
	岡崎	岩津小	出村 柊太
	岡崎	大門小	岩野 慎也
	豊田	大林小	館山 俊平
	豊田	梅坪小	尾関 邦義
算数(小)	安城	安城北部小	松島 みゆ
	安城	祥南小	富田 智喜
	安城	丈山小	甲田 智也
	安城	三河安城小	鈴木 廉
	西尾	一色中部小	小林 沙世
	西尾	横須賀小	天野 寛万
	みよし	緑丘小	江崎 周児
	幸田	中央小	吉田 亘樹
	幸田	中央小	水野 理紗
	豊橋	栄小	中村 紗菜
数学(中)	豊川	一宮西部小	栗田 理沙
	田原	赤羽根小	河合 志奈
	岡崎	葵中	河上 翔太
	岡崎	竜南中	鈴木 裕輔
	岡崎	北中	西尾 修一
	岡崎	北中	渡會 大貴
	岡崎	六ツ美北中	天野 泰国
	安城	安祥中	芦澤 大地
	西尾	鶴城中	中根 佑香
	西尾	一色中	田中 俊輝
社会(小)	高浜	高浜中	宮崎 成就
	豊橋	南陽中	中山 瑞基

特色ある教育活動

「郡市教育・研究助成」を生かした取組紹介

「学び続ける南中生」を育て、発信する

研究推進・研究発表の取組を通して

高浜市立南中学校長 清水 美智男

本校は、令和元年度に高浜市教育委員会の委嘱を受け、教科指導についての研究を進め、令和4年に研究発表会を開催しました。

職員の「学び合い」を生む研究組織

本校の規模は、18学級（内特別支援2学級）生徒数約600名、常勤の教員数約40名程度で推移しています。研究委嘱を受けた年、学級担任の平均年齢は30歳以下であり、授業や行事ではエネルギーはあるものの知識と経験に弱さが見られました。また、学校規模の関係上、若手教員1名が全学級を担当する教科もありました。

そこで、年齢や人数などのバランスを考慮し、「複数教科を組み合わせた」3つの部会を研究組織の中に位置づけました。たとえば、第1部会の構成は、「国語・体育・美術」としました。

研究開始当初は、「自分の専門外の教科の授業に関わるのは自信がない」という声も聞かれまし

生徒と共に高みをめざす

以前から、「先生がどんな願いをもって授業を行っているか」が生徒に伝われば、生徒にとっても「目ざす生徒像」が意味のあるものとなり、ひいては研究の成果につながるのではないかと考えていました。そこで、研究委嘱を機に生徒向けに授業に関する通信を発行することを企画しました。名称を『窓』と名付け、主として授業を参観した役職者が執筆を担当し、全教室掲示、公開授業対象学級の生徒には全員配付することとしました。

授業に位置づけられた学習活動の内容や方法には、教師の意図が反映されています。たとえば、自分と仲間の考えの共通点や相違点を明確にし、考えを広げるために少人数での話し合いが行われることがあります。そのことについて、執筆者はうまくいった場合には、何がよかったのかを明らかにし、その良さをさらに伸ばしていけるような評価と励ましを記述します。うまくいかなかった場合には、どうすれば改善できるのかを具体的な視点や方法を示し、めざしてほしい姿や期待を記

述します。まだ十分な成果は確認できていませんが、生徒向けの通信であっても、授業者がそれを読むことで自身の授業改善の参考にすることもできるという、副次的な効果も見られています。今後も、教師の側の独りよがりでない、生徒と共に高みをめざす研究を進めていきたいと考えています。

効率と効果を両立する研究発表会

研究委嘱の2年目、市内の全教員へのタブレット端末貸与や全教室への電子黒板の設置がわかに実現しました。この状況を業務改善の追い風ととらえ、研究発表会のあり方を根本から見直すこととしました。具体的には、紙媒体での研究要項、指導案集の発行をやめ、タブレットで見ることができるようになりました。また、研究発表全体会については一か所に集まって行うのではなく、ZOOM配信した映像を授業公開を行わない教室の電子黒板で視聴できるようにしました。研究概要の説明なども事前に録画しておいたものを配信しました。こうした取組により、印刷やリハーサル、会場設営など、研究発表会に伴うさまざまな業務を大幅に削減することができ、授業に時間と労力を傾注する余裕が生まれました。

コロナ禍での研究推進は苦労も多かった反面、これまでのあり方を見直し、新たな取り組みをする契機にもなりました。



全体発表をZoom配信

研究領域	郡 市	学校名	氏 名
特別支援教育(中)	豊橋	南稜中	福岡 曜子
総合的な学習(小)	岡崎	根石小	今泉 雄大
	岡崎	豊富小	岩田 光憲
	岡崎	下山小	杉浦 康平
	豊田	冷田小	藤城 秀幸
	西尾	西尾小	小林 桃子
	幸田	幸田小	湯浅 香織
	幸田	豊坂小	大附 直登
	蒲郡	蒲郡南部小	田原 加有
	蒲郡	塩津小	島内 麻衣
	新城	八名小	中村 達哉
総合的な学習(中)	岡崎	新香山中	寛松 勇太
	碧南	南中	鈴木謙太郎

研究領域	郡 市	学校名	氏 名
情報教育(小)	岡崎	常磐東小	青木丈之伸
	岡崎	大樹寺小	長瀬 太一
	岡崎	小豆坂小	鈴木 由理
	豊橋	松山小	川上潤一郎
特別活動(小)	岡崎	美合小	見市 達俊
特別活動(中)	岡崎	常磐中	勝治 貴志
学校図書	豊田	足助小	城殿 祐嘉
	高浜	翼小	永田 純一
生徒指導	岡崎	美合小	光田 拓矢
	豊田	旭中	鹿野 順平
	豊橋	南稜中	藤田 裕誉
キャリア教育	豊田	東保見小	千代田ユキ
その他	岡崎	恵田小	浅井 悠輔

● 1年次申請の選考を終えて ●

審査委員会副委員長

本年度の個人研究助成の1年次申請は260名の応募があり、その中から208名を助成対象者として選考しました。惜しくも選考されなかった方の実践計画からも、研究に取り組もうとする意欲が十分に感じられました。今後も確かな研究を継続され、次年度も応募されることを期待しています。

以下に、選考審査において気付いたことを述べます。研究実践のさらなる推進や、2年次申請の参考になれば幸いです。

- ・子どもの実態を踏まえた自作教材を活用したり、外国にルーツを持つ子のアイデンティティ形成への支援を図ったりと、目の前の子どもが生き生きと活動できる工夫がみられ、子どもの成長を願う強い気持ちを感じました。ただ、評価を意識した計画が不十分なものや発達段階の考

慮が欠けているものがありました。

- ・プログラミング学習を意欲的に取り入れたり、表現と鑑賞の往還を重視したり、地域と関連させて心を育む計画をしたりと、実践が楽しみなものばかりでした。一方、思考ツールやICT機器を積極的に活用するものの中に、必要性を感じないものや、活用だけが目的化していると感じるものもありました。
- ・主題設定の理由が目の前の子どもの実態や時代の要請を踏まえた丁寧なもので好感がもてました。また、子どもの主体性を促す手立てや、対話的な学びとしてのチーム学習などの手立てが計画されていました。これらの手立てと教科で育成したい資質・能力との関わりについての言及がさらに深まることを期待します。

<2年次>(50名)

研究領域	郡 市	学校名	氏 名	研 究 主 題
国語(小)	豊田	根川小	若山 芽生	言葉をつないで生き生きと思いを伝え合う子の育成
	西尾	西尾小	星野 梨奈	主体的に物語を読み進め、叙述をもとに登場人物の気持ちを考え、友達と関わり合いながら、自分の考えを深める子供の育成
	西尾	一色東部小	深津 美穂	主体的に物語を読み進め、叙述の言葉に着目して読み取る子供の育成
	知立	知立小	金丸 優子	読み手のことを考え、言葉や内容を選んで文章を書くことができる子どもの育成
	幸田	坂崎小	北村 武瑠	根拠をもって積極的に自分の考えを伝えることができる子の育成
	豊川	赤坂小	山本 真衣	根拠をもって思いを伝え合い、自らの読みを深めることができる子の育成
国語(中)	蒲郡	塩津小	奥村 彩花	仲間との交流を通して、自分の考えを深め、積極的に発表する子の育成
	刈谷	雁が音中	高島 望	深い読みを目指して仲間と話し合い、すすんで書くことに取り組む生徒の育成
社会(小)	西尾	吉良中	野口 翔太	古典をすすんで読み、目標をもって主体的に学ぶ生徒の育成
	岡崎	大門小	田中章太郎	歴史学習の楽しさを実感できる子どもの育成
	高浜	翼小	多田 翔哉	歴史的事象を多角的な視点から考えられる子の育成
	豊橋	東田小	播摩 淳一	ICT機器を活用し、主体的に学びを深め、思いを伝え合う児童の育成
社会(中)	蒲郡	中央小	鈴木 暁之	地域教材を用いた、個別最適・協働的な学びによる「深い学び」の実現
	西尾	寺津中	内田 黎生	振り返りの工夫を通して、社会的な見方を広げる生徒の育成
算数	田原	赤羽根中	藤原秀一郎	自分の考えを練り直し、社会的事象を多面的に捉えることのできる生徒の育成
	刈谷	かりがね小	浅田 亮	「粘り強い取組」と「学習の調整」を通して、主体的に学習に取り組む児童の育成
	安城	錦町小	石川みさこ	主体的に考え、学びを深める子どもの育成

研究領域	郡 市	学校名	氏 名
数学(中)	豊川	御津中	河野 郁弥
	北設	設楽中	鈴木 良幸
理科(小)	岡崎	梅園小	永田 祥広
	岡崎	矢作南小	鈴木 真登
	刈谷	平成小	尾崎 成和
	西尾	一色中部小	中垣 宏基
	新城	鳳来寺小	中島 智之
	田原	野田小	影山 温子
	岡崎	美川中	青木 結唯
	岡崎	福岡中	稲吉菜美子
	岡崎	六ツ美中	萩原 美緒
	岡崎	翔南中	大橋 龍人
理科(中)	豊田	若園中	豊田 美香
	豊田	前林中	佐々木大輝
	安城	東山中	生島 果恵
	西尾	鶴城中	長谷川佳弘
	西尾	東部中	高橋 賢太
	西尾	吉良中	武田 悠史
	蒲郡	大塚中	飯塚 弦奨
	田原	福江中	竹内 光優
	北設	東栄中	古橋 龍馬
	岡崎	梅園小	今井 千扇
音楽(小)	安城	二本木小	佐々木大地
	安城	桜町小	近藤 梨紗
	北設	田口小	松井 鮎子
音楽(中)	幸田	北部中	塩田 咲
	豊橋	高豊中	伴 純一
図画工作(小)	岡崎	羽根小	杉浦 貴恵
	岡崎	岩津小	三浦 祐揮
	刈谷	日高小	榊原 碧
	高浜	翼小	森田 愛梨
美術(中)	西尾	鶴城中	工藤 彩加
	高浜	高浜中	岩月 綾乃
家庭(小)	岡崎	梅園小	豊田 凌士
	豊橋	高師小	佐藤 里帆
技術・家庭(中)	岡崎	城北中	浅川 晶紀
	安城	安城南中	金田 悠雅
	幸田	北部中	家治川凌平
体育(小)	岡崎	梅園小	武谷依里香
	岡崎	梅園小	野村 隼斗
	岡崎	藤川小	岩本 力也
	岡崎	本宿小	石原 李華
	岡崎	奥殿小	木村 颯
	岡崎	小豆坂小	康本 慎吾
	刈谷	小高原小	赤松 賢一
	豊田	童子山小	林 桃佳
	安城	明和小	小山 尚哉
	安城	桜井小	杉山 翔一
西尾	鶴城小	渡邊 瑞貴	

研究領域	郡 市	学校名	氏 名
体育(小)	幸田	幸田小	林 優真
	豊橋	新川小	江口 優介
	豊橋	羽根井小	瀬川 英充
	豊橋	福岡小	深城 郁人
	豊橋	鷹丘小	青山 智美
	蒲郡	大塚小	金田 真樹
	新城	鳳来寺小	四元 聖徒
	岡崎	美川中	小田 琴音
保健体育(中)	岡崎	葵中	後藤 麻由
	岡崎	城北中	川野 志穂
	岡崎	矢作北中	茂木 瑞恵
	安城	篠目中	橋本麻衣香
	西尾	西尾中	濱中 透子
	西尾	一色中	林 凌平
	豊田	足助小	宇野 理恵
	西尾	西尾小	大澤 雪乃
外国語(中)	岡崎	甲山中	高嶽菜津紀
	岡崎	矢作北中	倉富 由佳
	安城	東山中	畔柳 一佳
	西尾	鶴城中	岩坪 優貴
	西尾	一色中	今本 真輝
	西尾	吉良中	宮崎 克人
	高浜	高浜中	平賀 美保
	みよし	南中	菅野 豪紀
	豊田	五ヶ丘小	加藤 麻子
	安城	安城中部小	日置穂乃花
生活(小)	安城	安城東部小	成瀬 友幾
	西尾	三和小	小塚 礼華
	西尾	一色東部小	高橋 浩司
	知立	猿渡小	野村 未和
	高浜	吉浜小	森山咲里奈
	幸田	豊坂小	杉浦 彩華
	豊橋	牟呂小	堀田 怜奈
	蒲郡	中央小	石河 将博
道徳(小)	新城	八名小	鈴木 翔子
	岡崎	男川小	中野 紗希
	岡崎	本宿小	富田 和樹
	安城	安城南部小	安藤 帆南
	安城	安城北部小	勝山 喜斗
道徳(中)	岡崎	北中	岩月 聖将
学校保健(小)	岡崎	生平小	中村さくら
	岡崎	宮崎小	小久保千菜美
	知立	猿渡小	森 夢花
学校保健(中)	岡崎	甲山中	久玉 和泉
特別支援教育(小)	岡崎	美合小	川澄 望
	岡崎	羽根小	夏目 恵佑
	岡崎	岩津小	兼岩 奈央
	碧南	棚尾小	磯貝 詩子
特別支援教育(中)	岡崎	南中	蜂須賀一輝

<3年次>(10名)

研究領域	郡 市	学校名	氏 名	研 究 主 題
国語(中)	知立	知立南中	山田 啓介	ICT機器の活用によって、物語への理解を深める読みの指導
社会(小)	田原	伊良湖岬小	津田 将吾	地域の人・もの・ことと関わることで、主体的・対話的で深い学びを引き出す社会科学習
社会(中)	田原	田原東部中	岡田 泰輔	仲間と関わりながら、よりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業
算数	知立	知立東小	金原 正季	協働的な学びで、よりよい考えを生み出すことのできる児童の育成
理科(小)	岡崎	岩津小	小川 昇汰	理科授業における主体的・対話的で深い学びの実現
音楽(中)	豊田	朝日丘中	福田 真美	地域と連携した郷土芸能の体験活動を通して、地元の伝統芸能に愛着をもつことのできる生徒の育成
外国語・外国語活動	安城	今池小	杉浦 稚子	子どもの興味を引き付ける外国語(活動)のプレゼンテーション
道徳(小)	豊川	三蔵子小	菊池 景子	あたたかな人間関係の中で、対話を通して、主体的に学びを深める子の育成
学校保健(小)	新城	新城小	夏目 香	自分の生活習慣をふりかえり、目の健康課題に気づき解決しようとする子の育成
総合的な学習(小)	蒲郡	蒲郡南部小	安田 晃治	自ら幸せな生き方を見出す子を育てる総合的な学習

Research result report

研究成果論文提出者の紹介 (令和2～令和4年度の研究)

令和2年度を研究1年次として、令和4年度までの3年間、着実に研究を推進され、成果を見事に論文として提出された10名の先生方を紹介します。

国 語

刈谷・住吉小 吉村 睦



自ら探求し、仲間と共に未来をよりよくしようと行動する子どもの育成

理 科

西尾・幡豆小 古澤 知幸



自ら課題を見出し、かかわりを通して考えを深められる生徒の育成

社 会

蒲郡・形原北小 近藤 祐輔



主体的に仲間や地域とかかわりながら追究し、動き出す子を育てる社会科学習

理 科

新城・千郷中 酒向 和希



自分と仲間の考えを大切に、学び続ける生徒を育む理科学習

社 会

蒲郡・中部中 山本 佳範



社会的事象に関心をもち、課題に対して主体的に追究し、学び合う生徒の育成

技術・家庭

豊田・美里中 清水 悠生



技術を継承し、持続可能な社会を目指す生徒の育成

数 学

蒲郡・中部中 原田 樹一



自ら動き出し、追究し続け、ともに高め合う生徒の育成

外国語活動

岡崎・上地小 天野 圭祐



主体的に追究する児童・生徒の育成

理 科

岡崎・小豆坂小 永田 祥晃



「STEAM教育」による地域社会で育てる理科学習

総合的な学習

豊田・則定小 加藤 大智



ICT機器を活用して主体的に郷土のよさを発信し、郷土に誇りをもつ子どもの育成

研究領域	郡 市	学校名	氏 名	研 究 主 題
算数	西尾	花ノ木小	角谷 真輝	学びを定着させて、他者との交流から考えを深めることができる児童の育成
	豊橋	岩西小	島岡 廉	データを根拠に多面的、多角的に捉えながら、自分の考えを再構築する子の育成
数学	岡崎	南中	尾崎 絢香	チーム学習を通して、主体的に学びに向かい、共に高めあえる授業
	岡崎	竜海中	江口 京弥	主体的・協働的に学び合い、数学のよさを実感する生徒の育成
	安城	安祥中	松本 渉夢	数学のよさを知り、自ら課題を解決しようとする生徒の育成
	西尾	東部中	竹内はるな	見通しをもって粘り強く考え、問題を解決しようとする生徒の育成
	蒲郡	塩津中	石原 佳奈	自ら追究し、学びを実感する生徒を育てる数学学習
理科(小)	安城	里町小	吉武 優志	根拠と見通しをもって実験・観察に取り組む児童の育成
	西尾	一色中部小	今川 智生	日常生活の経験を活かし、目に見えない変化を具体的に説明できる子の育成
理科(中)	岡崎	翔南中	松井 昭憲	実生活の事象の理解に向けて協働的に関わり、新たな課題や創造へ発展できる生徒の育成
音楽(小)	刈谷	衣浦小	河治 真未	自ら感じ・考え・表現する子の育成
	みよし	黒笹小	中野 茉友	歌の特徴に気づき、自分の言葉で表現できる子の育成
美術	西尾	西尾中	土谷 萌佳	さまざまな関わり合いをもとに発想を広げ、意欲的に主題を追究することのできる生徒の育成
家庭	豊田	九久平小	石田和可奈	自分たちができていることを考えて実践し、持続可能な生活の仕方を地域に提案しよう
技術・家庭	岡崎	岩津中	河合 巧	課題設定を通して身近な生活や社会で生かされている技術に気づき、よりよい生活を創造する生徒の育成
	西尾	鶴城中	久松 真理	未来のために主体的に考え、実践することのできる生徒の育成
	高浜	高浜中	寛 峻斗	技術的なものの見方・考え方を通して、問題を課題化し、学んだ知識や技能を活用して問題解決できる生徒の育成
	高浜	南中	織田 楓	未来に生きる自分を自覚し、「SDGs」の視点を取り入れ、実践できる生徒の育成
体育	岡崎	六名小	豊田 操平	パラスポーツ、ゴールボールを通じて、体育的視点を持った児童の育成
	豊田	高嶺小	中野 陽介	仲間と豊かに関わり合いながら運動する意欲を高める児童の育成
保健体育	西尾	東部中	黒部愛里咲	仲間とともに創造力を高める授業づくり
道徳(小)	西尾	東部中	浅野 市帆	自己の役割を見つけ、仲間と対話しながら課題の解決を目指すようとする生徒の育成
学校保健(小)	岡崎	竜美丘小	鈴木 幸太	自分たちでつくる道徳の授業
	岡崎	連尺小	向井 麻由	自分の生活を見直し、進んで健康な生活を送ることができる子どもの育成
	岡崎	下山小	平松 沙季	規則正しい生活を自分で意識し、継続して身体づくりに取り組むことができる子の育成
	西尾	白浜小	齋藤 玲菜	自分の生活を見直し、自ら生活を改善しようとする子の育成
特別支援教育(小)	北設	東栄小	熊谷 奈実	いいこといっぱい いい姿勢
特別支援教育(小)	岡崎	美合小	池田 康江	児童の実態に合わせた授業の工夫によって「学びに向かう力」を高める児童の育成
特別支援教育(中)	西尾	平坂中	加藤 洋介	主体的に課題に取り組み、自分の思いを伝えることができる生徒の育成
総合的な学習(小)	安城	安城東部小	森下 夏帆	課題解決に向けて協働的に学ぼうとする子どもの育成
	西尾	西野町小	樋口 充洋	情報を取捨選択し、選んだ情報に価値を見出す子供の育成
	蒲郡	三谷東小	小泉 辰十	自ら追究し続ける子の育成
特別活動(小)	豊田	中山小	宇都木俊志	多様な価値観を受け入れ、よりよい合意形成の能力を高める児童の育成

● 2年次・3年次申請の選考を終えて ●

2年次助成対象者を200名の中から50名、3年次助成対象者を50名の中から10名選考しました。地域の魅力を最大限に生かした実践、教科横断的でダイナミックな実践、自分たちの提案を市長にまで届ける実践をはじめ、先進的で提案性のある実践、また、情熱的で魅力あふれる実践が多く、三河の教育の確かさが表れていると思いました。改めて、応募された方は今後の三河の教育をリードされる方々ばかりと感じます。

以下に、選考審査において気づいたことを述べます。参考にしていただければ幸いです。

- ・子どもの学びに寄り添った単元構想のもと、子どもの考えや意識を丁寧に生かしながら、授業実践を重ねていたり、自作動画を活用して比較させたりと、子どものためという姿勢を高く評価します。ただ、研究という点

審査委員会副委員長

で、めざす姿と主題や仮説にずれがあるものもありました。めざす姿が抽象的なため、実践内容が後付けのように読めてしまうものもあります。また、仮説の「こうすればこうなる」の表現内容が非常に短絡的なものも見られました。めざす姿をより具体化することで筋の通った説得力のある論述になります。

- ・見える化、焦点化などの手立てが実践成果とつながっていたり、ICT活用が作業時間の短縮につながっていたりするものが論述を通してよく分かりました。一方、手立ての有効性について、やや主観的で強引に結び付けていると感じるものもありました。今後は記録や資料に基づき、実践前と実践後の姿をしっかりと論述することで、手立ての有効性を明確に論じてほしいと思います。



コンクール関係

みかわ彩発見絵画コンクール (秋・冬の部)

応募期間 令和5年12月18日(月)～令和6年1月10日(水)

かきぞめコンクール

応募期間 令和6年1月4日(木)～1月9日(火)

作品展 (絵画・かきぞめ同時開催)

展示場所 三河教育会館

展示日時 令和6年2月9日(金)・2月10日(土)

午前9時30分～午後3時30分

優秀作品表彰式 令和6年2月11日(日)



使用報告・刊行物注文締切

◇使用報告/冬休み日誌、かきぞめ手本、硬筆用紙、賞状
令和5年12月12日(火)～14日(木)

◇令和6年度版刊行物第1期当初注文/
令和6年1月5日(金)～15日(月)

□刊行物モニター研究調査報告締切/
令和5年11月24日(金)

□教育図書出版助成申請締切/
令和5年12月4日(月)

□郡市教育・研究助成、学校教育ボランティア助成等
報告締切/令和6年2月29日(木)



三河の先生方の手による、三河の児童生徒のための安価な刊行物!!

令和6年度版刊行物
小学校版大改訂

～ デジタル化満載 ～



国語の学習



ふえのひびき



せいかつかノート



修学旅行のしおり



いのち

令和6年度版デジタル化



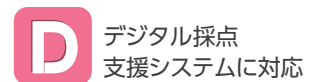
教師用 PDF版のみ



教師用 PDF版付



QRコード付



デジタル採点 支援システムに対応

- 小学校版 大改訂(学習類5、それ以外9) 小改訂(学習類以外7)
- 中学校版 小改訂(演習類5、それ以外11)
- 学習類・演習類は全てデジタル採点支援システムに対応

※詳しくは、ホームページをご覧ください。

訂正とお詫び 132号P13の学校教育ボランティア助成グループ一覧で誤植がありました。訂正してお詫び申し上げます。

正 安城・安城北部小 塚本 幸江 誤 塚本 幸子 正 豊田・幸海小 曾我 千明 誤 曾我 千代

文振の最新情報は、ホームページをご覧ください。各種応募要項、申請書の様式等もアップしています。

